

コフロック社長

小島 望氏

今年はチャレンジの年



―2025年の見通しは。

「流体計測制御機器事業の一つの指標となる半導体市場の動きがまだら模様だが、案件が幾つか動き始めた。25年は需要回復を見込むほか、近年に力を入れて開発してきた新製品が半導体製造装置や半導体洗浄装置向けで期待できる。このほか、除害装置など、半導体製造の付帯装置向けの需要は底堅いイメージ。」

また、付帯装置である除害装

置でも、環境規制が厳しくなる中で廃液処理やガス残留物質処理などを目的とした新たな付帯設備のニーズが増えてきた。これらの処理にはバルブや流量計が必要で、新しい需要も見込めそうだ」

―窒素や酸素などのガス発生装置の状況は。

「環境対応でトラックによるガス輸送を削減する動きや

多様な価値観に発想を転換

物価高騰などで、産業ガスの内製化ニーズが高まっている。窒素は部品生産や食品の酸化防止などで需要が増えているほか、陸上養殖の広がりなどで酸素ガス発生装置の販売も増加している。このほか培ったガス発生装置の気体分離技術とエンジニアリング力を用い、注目度が高まる水素関連市場向けで新たな取り組みを進めている。最近では、燃料電池評価装置もあらためてフィーチャーされている」

―25年の注力ポイントは。

「今年はチャレンジの年。東アジアはもちろん、それ以外も含め、海外全体の裾野を広げ強化していきたい。価値観が多様化する中、モノづくりや働き方、人材育成、採用などの多くで今までの発想や考え方を変えていかななくてはならないと強く感じている」